

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市袋原たんぼぼホーム
2	指定管理者	社会福祉法人 仙台はげみの会
3	指定期間	平成29年4月1日から平成33年3月31日まで（4年間）
4	施設の利用状況	《利用者数》 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度 4,144人（前年度比126%） ・平成28年度 3,280人（前年度比105%） ・平成27年度 3,101人（前年度比 74%）
		《事業》 <ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援事業
5	収支の状況	《費用》 <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者に支払った費用 55,763千円（59,127千円） ・その他市が負担した費用 2,750千円（ 0千円）
		《収入》 <ul style="list-style-type: none"> ・使用料収入 42,551千円（19,347千円） ・その他収入 0千円（ 0千円）
6	利用者の声	《実施状況》 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年2月、指定管理者の協力のもと障害者支援課で利用者アンケートを実施し、34人/35人中（97.1%）の回答を得た。 ・施設の利用に関し、大変満足又は満足が89.4%、不満との回答は0.6%だった。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	施設の設置目的に基づいた事業計画がされており、職員も設置目的を十分理解のうえ施設運営に当たっている。 近隣の保育所、幼稚園を訪問し、施設卒園後の児童の様子を確認しながら、児童に関わる関係者間の連携強化に努めている。	S
II	施設の運営管理体制	事業計画に定められた運営管理を行うにあたり、人員の確保等課題はあるが、職員間の連携は十分に行われており、情報の共有も図られている。 個人情報取扱も適切で、職員研修もなされている。 災害発生時の対応について、近隣保育所等とネットワークを構築している。	A
III	施設・設備の維持管理	施設・設備は概ね適正に管理されており、利用者が快適かつ安全に利用できる環境整備に努めている。 環境への配慮としては、施設全体で積極的な取り組みを進めている。	S
IV	サービスの質の向上	保護者等に対してパンフレットを用いて説明するなど、分かりやすく、細やかな情報提供を心掛けている。 また、定期的に職員会議を開催し、全職員の一貫したサービス提供を図り、各種研修会にも参加し知識の向上に努めている。 苦情解決の取組みについて利用者への周知を行い、施設運営に真摯に向き合っている。	S
V	施設固有の基準	利用者への利用に係る説明及び支援に関する記録について、一部適切な取扱いがなされていない部分があった。 個別支援計画の記録は詳細であり、保護者の意見も取り入れて策定している。 指定児童発達支援事業所としての基準を遵守しながら利用者処遇の向上に努めている。	B

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点評価		—

四 評価総括

《指定管理者（仙台はげみの会）による自己評価》
<p><発達支援について> 単独通園クラスでは室内の構造化、視覚支援の更なる充実を図り、特性に応じたより分かりやすく安心できる環境の中で、子ども同士の関わりが増え、身辺自立を促す取組みができた。また個別或いはグループで自立課題を楽しみながら行えるよう工夫し、認められながら子どもが意欲的に遊びに取り組む環境を作ることで保護者と特性を共有できた。野菜栽培、行事に合わせた食事提供の機会を複数回作り、食物への興味を広げる食育の取組みができた。</p> <p><家族支援について> 保護者が乳幼児期の子どもの姿を書き込みながら理解を深めるリーフレットを新たに作成し勉強会の充実を図ると共に、ペアレントメンターによる相談室を作り、共感性の高い相談を恒常的に行えるようにし、好評を得た。きょうだい児デイキャンプ、保護者勉強会も定期開催し、家族丸ごとの支援を継続的に行っている。</p> <p><地域支援について> 新たにホームの支援内容を写真入りで紹介した「移行支援シート」を作成し進路先へのスムーズな引き継ぎを可能にした。進路先への年央訪問、子育て支援センターへの定期訪問を実施し、卒園児以外の在籍児に関する相談も受け、連携を深める取組みが出来た。地域からの相談に応えアール相談に繋ぐ等、コーディネート機能の実施に取り組んだ。卒園児事後教室を定期開催し保護者の相談、就学に関する勉強会を行い移行期も安心して過ごせる取組みを継続的に行っている。幼稚園保育園とのケース検討会(3回)には51名の参加があり、ホームの構造化等を紹介しながら発達特性と対応方法を互いに学び理解を広げることができた。園長が幼稚園連合会、民間保育園主任保育士会主催の職員研修会の講師を務めることで、乳幼児期の保護者の不安や親子通園施設の療育に関する情報共有ができた。</p> 以上のとおり、様々なニーズに柔軟に対応し充実した支援であったことは登園率にも反映している。子育て支援機関との連携を積極的に進め、初年度ながら「児童発達支援センターガイドライン」にも対応した取組みができた成果の大きい一年であり、「療育報告」に詳細を纏め関係機関への情報公開と共有を図っている点も先進的な取組みであると自負している。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>平成29年度の管理運営については、協定書及び仕様書に従っておおむね適切・良好に行われていた。児童の状況に応じたきめ細かい療育の実現を図り、特性にあわせた支援を行うための工夫も様々なされている。当該年度は、センター化に伴う地域相談体制の強化に向けた取組みも実施した。</p> <p>保護者勉強会やきょうだい児支援行事の定期開催等、児童だけでなく家族を含めての利用者処遇の向上に努めるほか、保育所、幼稚園と交流して卒園後の児童の状況把握に努め、地域との連携・交流の促進も積極的に図っている。</p>	A

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局障害福祉部障害者支援課